

食や英語 思い出深く

幕別中・高生、豪州訪問を報告

【幕別】町中学生・高校生海外研修派遣事業のオー

ストラリア訪問団（団長・水谷泰崇さん）札幌内東中3

ツフが協力

による演出の打ち合わせの場が設けられ、生徒たちは音響や照明などプロの技術を参考に完成度の高い舞台を目指している。

同公民館の指定管理者の帯広公害防止技術センターが、生徒たちにより深く舞台づくりに関わってもらおうと企画。同公民館には備えていないLEDライトやスモークマシンもレンタルし、演出を手助けする。

18日には帯広三条高演劇部の音響・照明担当者4人が来館。本番の舞台となる大ホールで、同ホール担当責任者の山内慎介さんと真剣な表情で舞台の照明を確認する高橋副部長（左）と部員の長屋愛津美さん

一連の場面の照明を確認した。同校は友情をテーマにしたオリジナル作品「未来」を上演する。部員たちはシーンを思い浮かべながら「もう少し昼のイメージを出したい」と要望を伝え、出演者の立ち位置と照明の角度などを調整した。

舞台監督を務める高橋ほかの副部長（3年）は「スタツフの皆さんが時間をつくってくれてうれしい」と感謝し、「未熟なところもあるので、本番までもっと良くなるよう頑張りたい」と張り切っていた。

今年のテトラ小演劇祭には8校が参加。22日は糸市紅志、音更、鹿追、帯広柏葉、23日は清水、帯広三条芽室、帯広北がそれぞれ上演する。開演は両日とも午後1時。入場無料。

（澤村真理子）

年、生徒18人が18日、帰れ、飯田晴義町長に体験を町報告のため町役場を訪語った。

将来、国際社会に

貢献できる人材を育成しようと、町教委が毎年行っている事業。今回は中学生16人と高校生2人が参加。3月26日～4月5日まで、首都キャンベラやシドニーで、ホームステイなどを行った。

生徒たちは「英語が早くて聞き取るのが大変だった」「（牧場で）羊を捕まえたのが楽しかった」「授業中にお菓子を食べていたのが印象的」「食べる早さや量には自信があったが、負けた」などと思いを話した。

飯田町長は「病気やホームシックもなく帰ってきてくれてうれしい。海外の自由な発想を学んだと思うので、今後の学校生活や人生に生かして」と話した。

（眞尾敦）



オーストラリアでの体験を飯田町長（前列中央）に報告した訪問団